

司書教育と協議会

山口 佐保

(大阪厚生年金病院図書室)

私は大学卒業後、経済系専門図書館でアルバイトをしていましたが、思いがけず病院図書室に就職でき、司書で正職に就きたいという念願がかないました。しかし、図書館学を専門に勉強してきたとはいえ、医学図書館に関する予備知識は皆無でしたので、最初はわからないことばかりでこの先しっかりとやっていけるかどうか不安で一杯でした。

この協議会に初めて接したのはちょうどその頃でした。前任者のお誘いでライフサイエンス図書館員研究会に参加し、そこで協議会の方々のお話を伺い、その仕事ぶりにただただ感心したことを思い出します。同時に私も頑張っってやっていこうと力づけられる思いがしました。その後、協議会の紹介で住友病院にて新人研修を受けさせていただき、実務に大変役立ちました。

現在、大学の司書教育は図書専門大学を除いては、一般的な事についてしか教えられません。従って、司書の専門教育を受けていても文系の勉強しかしていない者にとっては、自然科学系の図書館では殆ど無から入っていかなければなりません。司書としての専門性が生かせるようになるには相当時間がかかります。また、病院では司書の専門性は認められず、一般事務員として扱われるなど、病院図書室をとりまく環境は他の図書館に比べまだまだ立ち遅れています。

とかく孤独になりがちで、厳しい環境におかれている病院司書にとって、協議会は励ましあえる場として大変心強いものです。また、相互貸借、研修会など実務上でも助けられることが多く、私にとっては無くてはならない重要な存在となっています。

私もまだ自室の実務で手が一杯でお手伝いは殆どできていませんが、協議会を設立された方達に敬意を表するとともに、病院司書の地位向上のため、協議会が今後ますます力を発揮するよう期待しています。

図書室の拡充と協議会

笠原 広子

(名古屋第一赤十字病院図書室)

永年病院に勤務しておりましたが、図書室にはあまり縁がなく、たまに用事があってもひっそりと閉まった扉の前で入るのがためらわれたものです。それでも一方では貸出事務の合間に好きな本を読んでいられる図書室の仕事はいいなあと思ったりしていました。その私が人事異動で、昭和59年4月から図書室勤務になりました。ところが、実際に図書室の仕事をするようになって、仕事に興味を持つようになると、その管理のあり方に大いに疑問を持つようになりました。そんなことがきっかけで、図書室の管理の勉強のため近畿病図協に入会させていただきました。研修会では病床数も少なく、他の部門との兼務の中で図書室の管理をしておられる方々がしっかりとした考えをもって勉強されているのに比べ、当院は病床数も遥かに多く、臨床研修指定病院、多くの学会の教育指定病院でもあり、専任の図書職員2名を擁しながら、雑誌目録ひとつない情けない図書室に愕然とさせられる思いでした。早速手始めに雑誌目録を作成して、相互貸借でお世話になっている病院、中部ブロックの赤十字病院に発送し、次いで図書室の拡充計画を推進することにいたしました。

今年度は愛知県で初めて病図協の研修会が開催されることになり、当院が会場をお引き受けいたしました。大勢の方に参加していただき、当院をご覧いただくと共に、病院幹部にも図書室の新しい動きを理解してもらうことができました。さらに当地域の関連機関の方々とも交流する機会を得ることもできました。こうして今では病図協で色々と勉強させていただき、それを力にして、当院図書室の充実はもとより、地域病院図書室のために少しでもお役に立てるよう微力ながら努力させていただいております。今後ともよろしくお願ひします。